

## 別府ツーリズムバレー構想推進協議会

---

【開催日時】2023年11月28日(火)13時30分～15時20分

【開催場所】別府市上下水道局3階大会議室

〈参加者〉(10名(内1名代理))

○委員

太神 みどり、倉原 浩志、坂井 伸任、末崎 博樹、関谷 忠、中村 恭子、原 和範、  
平岡 元庸、宮脇 恵理

(代理)徳永 成高

○事務局等 別府市観光・産業部長、産業政策課長 外4名

【会長あいさつ】関谷会長

【議題】専門部会での協議内容について一括説明

(各委員からの意見)

- ・別府市を訪れる観光客が増えているので、運転資金が手に入り資金繰りには困っていない。
- ・観光客が増えているが、人手不足で客室を100パーセント稼働できていない。
- ・入込客数が増えており、売上が伸びている。客単価もアップしている。
- ・昨年度創業に関する融資実績は250件、令和3年度の1.4倍。今年度上半期段階で、前年比ほぼ100パーセントである。
- ・創業塾に関して特別な広報はしていないが、口コミなどにより参加者増につながっている。
- ・創業セミナーへの参加者が多い。創業は宇佐市38件、国東市22件、豊後高田市12件、由布市10件。津久見市も年に2回創業セミナーを実施した。
- ・創業したい人が、各機関に行きやすい仕組みを作る必要がある。
- ・機能分担をしていく必要がある。
- ・どの機関がいつ何をしてるのか情報の一元化が必要である。
- ・創業前の計画を聞いてくれる人が必要である。
- ・支援機関の特性に応じて創業支援機関を使って頂きたい。
- ・創業支援の支援対象等について色分けをしていく方が良い。

- ・学生の創業が多いが、曖昧な話では対応が難しい。
- ・よらず支援拠点は、アイデアベースの段階から対応している。
- ・学生が創業支援機関に行くことは敷居が高いと感じている。
- ・個別に折衝しながら、どのようなニーズがあるのか調べて仕組み作りが必要と考える。大学連携が動いていないが、全ての大学で一緒に動くことは難しい。各大学で個別に進めていくしかないと考ええる。
- ・創業支援機関について、どこが具体的に何をしているか知ることができるものがあればと考える。
- ・創業支援機関が支援している人・企業は、エントリーシートをきれいにまとめている。しかしアントレプレナーシップ(起業家精神)が弱いと感じることがある。一方で、起業に対する想いがある人は、実現できるのかが弱いと感じる。2つの弱点を補っていけると良い。
- ・人手不足問題をどうするのか行政で仕組みを考えていただきたい。
- ・学生バイトと事業所マッチングが課題。大学に働きかける必要がある。
- ・別府市内の事業所と留学生を含む市内の学生のマッチングに対する動きとしてインターンシップを推奨しており、留学生を受け入れる事業者に補助金を出している。補助金を利用してほしい。
- ・学生はやりがいを感じるものを求めている。インターンシップをしているつもりが、サービスを提供していることになっている。留学生だけでなく国内学生のインターンシップ受け入れについても多少の支援があると学生を受け入れやすい。またインターンシップが充実していると良いと思う。
- ・泊まる人を増やしたくてしている事業が上手くいかない。平日と休日における稼働バランスが悪い。そこにビジネスチャンスがあると感じる。現状インバウンド客は円安だから来ている。円高になると来ないかもしれない。そこで起業・創業したい若者と観光客のニーズがマッチすると儲かる別府を作っていけると感じる。今の観光における状況のまま進んでいくと、不便な観光地という印象が残るかもしれない。いかに持続可能な形にしていけるのかが大事。
- ・同じ労働市場で人が回っていたが、コロナで市場を変えた人がいるかもしれない。固定費を下げたので、宿泊業は100パーセント稼働できない。労働市場に人が戻ってこないと回復しない。
- ・行政だけでなく、企業も福利厚生等の人材不足に対する努力をすべき。
- ・技能実習生が日本に来ていない。別府には学部生が多く志が高いため、単純労働をしたいわけではない。スポットで人手不足を埋めていく感じが良いと考える。

(閉会)